

述而第七

子以四教。文・行・忠・信。

しよもつおしぶんこうちゆうしん
子、四つを以て教う。文・行・忠・信。

(7-174)

< 子、四つを以て教う。文・行・忠・信 >

Q : 「子、四つを以て教う。文・行・忠・信」とは何ですか。

- A : (1) 「孔子は、主として四つのことを教えた。一つは文(学問)、二つは行(実践)、三つには忠(誠実)、そして四つには信(信義)である」の意。
- (2) 「孔子は四つの教授要目を以て門人を教育した。古典の講義と、徳の実践。その心の持ち方をいえば忠、すなわち、自分の心のまことをつくす誠実と、信、すなわち、人を欺かない信義のまことである」の意。
- (3) 「文」とは、今なら学問のこと。道理を書き表したものをすべて文といたので、先王の教えは皆文である。
- (4) 「行」とは、実行。礼を学んで実践に移すことが行。徳行を以て垂範すること。
- (5) 「忠」とは、自分のこころのまことを尽くすこと。従って忠は、自分一個についてもいえる。誠実のこと。自己分内のまこと。
- (6) 「信」とは、人を欺かないこと。約信のこと。他人との関係においてのまことであること。信義。自他をつなぐものはこの信の徳で、信は、社会道德の根本である。
- (7) 「文」と「行」は学問と実践で、その精神的な面からいえば「忠」と「信」。四者並立の四教ではない。根本は「忠」「信」という心の動き。伊藤仁斎はこの四教を孔子学派の家法、万世学問の定式なりと断じている。